

島根の多彩な医師の働き方
キャリアを支援します!

えんネット

Support Magazine 2016 No.03

Special Discussion

医師のキャリアデザインについて思うこと

島根県の医師によるキャリアトーク
in
松江赤十字病院

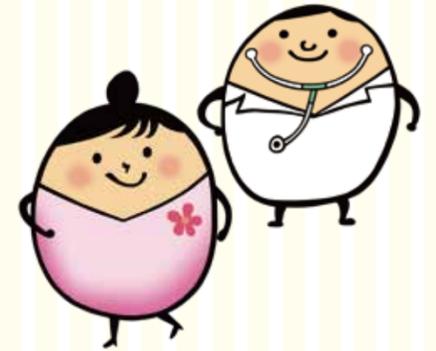


発行元

島根大学医学部地域医療支援学講座

「えんネット」はしまね地域医療支援センターから委託を受け設立しました。

医療人が輝くための ワークライフバランス支援の 取り組み紹介



PICKUP このえんネットの取り組みに加えて…

男女共同参画講義を行っています。

「えんネット」では医学生のうちから、男女ともに社会、家庭に参画する意識をもち、キャリアについて考える機会を設けるために男女共同参画講義を行っています。

講師をお招きし、医学部4年生を対象にグループワーク、ディスカッションを通して、多様性を学び、今後の自分のキャリアについて考えます。

キャリアモデルの紹介では、先生方が現在までライフイベントを経験しながら、どのようにキャリアを積んできたかお話を伺います。また、本講義は、島根県、島根県医師会と連携して行っています。今年度も、医学生が、近い将来について見つめなおす機会になるように企画しています。



島根大学医学部
地域医療支援学講座 准教授

佐野千晶

さの ちあき

復職・ワークライフバランス等に関連した医師キャリア支援「えんネット」相談窓口を担当し、キャリア形成のサポートをしています。



えんネット 島根大学医学部地域医療支援学講座内
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1 島根大学医学部地域医療支援学講座内
TEL & FAX:0853-20-2396 E-mail: en-net@med.shimane-u.ac.jp



発行 / えんネット
2016年 12月



小児科 副部長
小西 恵理 先生

初期研修医 (2年目)
阿武 茉莉 先生

医師のキャリアデザインについて思うこと

島根県の医師によるキャリアトーク in 松江赤十字病院

本日お集まりいただいたのは、研修医から20年以上のキャリアを持つ指導医クラスまで年齢・性別様々な4人の先生。各世代・各科で協力し、また、病院全体で医師の働き方をサポートする松江赤十字病院が考えるキャリアデザインについて語っていただきました。



Special Discussion



消化器内科
結城 崇史 先生



消化器内科 (後期研修医)
尾上 歩美 先生

若手が実感する 働きやすさと 医師同士のサポート

佐野：本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私がとうございませう。私たち「えんネット」ではキャリアアップに関する相談窓口として、一人でも多くの医師により働きやすい環境をつくりたいと考えております。そこで、松江赤十字病院は松江圏域唯一の3次救急で地域に貢献しながらも、一人ひとりのキャリアアップに対してサポートが手厚いと伺い、今日は参りました。まずは、皆さんのこれまでのキャリアを教えてください。

小西：鳥取大学を卒業し、ストレート入局。しかしながら、これまでのキャリアのおよそ半分を島根県で過ごしています。10年ほど隠岐や江津など島根県や西部に勤務し、そこで医師としてのベースを築きました。

佐野：島根部への勤務はお一人ですか？

小西：同じく医師である夫の転勤でしたから、家族全員で行きました。私の場合、キャリア1年目で結婚、その後、5年目に第一子を出産、三人の子ともがいます。早いときには産後8週間で復帰し、子育て中でも医師を辞めようと思ったことはありません。

佐野：同年代でいらっしゃる結城先生も、ご夫婦で医師であり、子育てをされていますね。

結城：はい。島根医科大学を卒業し、大学院に行きながら臨床の現場で学びました。そのころには既に子どもがおり、その後、松江生協病院、松江市立病院、聖路加国際病院などを経て、昨年より松江赤十字病院に勤めています。消化器内科を専門にしています。

佐野：奥様も消化器内科ですね。弊誌「えんネット」の第1号にご登壇いただきました。

結城：自分の手で治せたという実感を得られる消化器内科に夫婦で魅せられ、妻な

んで「三度の飯より内視鏡が好き」だなんて言います。このスペシャリティを持たことで、夫婦ともに医師を続ける道しか考えていませんでした。

佐野：後輩にあたるのが、尾上先生ですね。産休明け間もないのだからか。

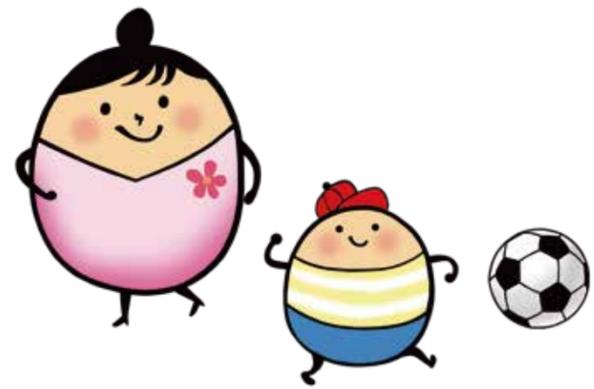
尾上：鳥取大学を卒業し、結婚。松江赤十字病院を初期研修地に選びました。しかし、2年目の夏に妊娠が発覚。妊娠9ヶ月まで研修を継続し、年度末に出産しました。半年ほどで復帰し、今は消化器内科でサポートを受けながら働いています。

佐野：お子さんはまだ1歳。育児も大変な時期ですね。

尾上：最初は両立できるものか不安でしたが、病院の隣に保育所もあり、申請しておけば24時間体制で面倒を見ていただけます。待機児童などの問題もありません。結城先生をはじめ消化器内科の先生の協力のもと、勤務できています。また、子育て中は当直など働き方に配慮したシステムのおかげで、両立しやすい環境です。



座談会の
ファシリテーター
佐野 千晶
さの ちあき
島根大学医学部
地域医療支援学講座 准教授
平成6年島根医科大学卒業、当大学の耳鼻咽喉科医、微生物学准教授等を経て現職。2児の母。





小西：よく当直明けに、一番乗りで出社する尾上先生を見かけます。

尾上：子どもがご飯をなかなか食べてくれないなど、ヒヤヒヤする日もあります。なんとか生活リズムに慣れてきました。

阿武：尾上先生のような先輩を見ていても、松江赤十字病院の働きやすさを実感しています。私は島根大学を卒業し、現在、初期研修2年目です。

佐野：若手が実感できているのはいいいことですね。しかし、消化器内科は緊急の呼び出しも多いのでは？

結城：確かに、吐血や急な様体の変化による呼び出しは少なくありませんね。

一人で考えるのではなくて、いかに科の先生と相談するか。消化器内科の例で言えば、大腸のカメラなど、昔は二人がかりだったものが、今は一人でパワールスになりました。医療の進歩でも状況は変化し、すし、恐れずに進んで欲しいですね。

小西：一人体制の島根部以外なら、待機体制を調整すればなんとかなります。

阿武：内科系を目指す専門医取得のために少し時間がかかるかもしれないと考えると…いつかは私も結婚や出産と考えると答えが出せなくて。

小西：やりたいことができるまでに、時間がかかりそうよね。ちなみに、小児科は既に2017年度から新専門医制度の開始が決まっています。決めかねたらいつでもいらっしやいね。

阿武：いつもありがとうございます！

佐野：島根大学の学生に聞いてみると、男女問わずほとんどの人が家庭を持ちたいと考えています。また、キャリアアンカーとして大切なものは何かを聞いてみると、管理能力や創造性などよりも「ワークライフバランス」を重視している

尾上：私も入院患者さんを診ているのですが、セカンドと呼ばれる先生がついていてくださって、深夜などの緊急事態には対応していただいています。助かりますね。

結城：尾上先生が日頃、本当に頑張っているから、「なんとか続けてほしい！」とほかの医師たちも張り切っています。

佐野：ライフイベントを迎えた医師が、キャリアを継続しやすい環境を科で整えているんですね。素晴らしい！

新専門医制度で より難しくなる キャリアアップの選択

阿武：ここ松江赤十字病院が松江の3次救急を一手に担っていることもあり、初期研修に選ばれました。救急では生命に危険をおよぼすような重症外傷から、心臓疾患、脳血管障害まで多くの患者さんがいらっしやいますから大変ですが、初期研修はとても充実しています。

る人が多い様子。こうした時代に、先輩医師や病院がいかにバランスよく活躍を促せるかが重要になっていくでしょう。

小西：松江赤十字病院は子育てしながら働く医師が多くいます。よく学生さんに「子育てと両立できますか？」と質問を受けるのですが、「辞めなかつたら続けられるよ」と話します。

結城：確かに、消化器内科というと尾上先生に仕事を続けてもらえなかつたら消化器内科は大変！今後も続けやすい環境を応援したいですね。

佐野：今、島根はただでさえ医師不足。若手の力を病院も、地域の皆さんも必要

結城：そろそろ、後期研修へ向けた準備もはじめるころかな？

阿武：それが…、後期研修のプランを決めたいのですが、新専門医制度の混乱もあり、キャリアアップの立て方が非常に難しいんです。

結城：確かに。内科系は、平成30年度からはじめると言われていますから、阿武先生はそれを見越したキャリアアップが必要ですね。自分の選ぶ専門によって、進み方が複雑になりますから、ライフイベントと照らし合わせて考えると難しい時期だなと。

佐野：早く制度内容が固まるといいですよ。

阿武：私の場合、しばらくは仕事に集中したいと思うものの、女性としてライフイベントを迎えた際には、急性期の患者さんを診ていけるのか不安も。皆さんのような子育て中の先輩の近くで働けることはいい経験です。

結城：小西先生のご夫婦も我が家も、実際に子育て中でも急性期の患者さんを夫婦ともに診られました。診ていける方法は、

としています。ライフイベントの途中で、医師として必要とされる環境ですね。

こんな時代だからこそ キャリアをバックアップする 松江赤十字病院は働きやすい！

結城：若手の力が必要とされる今、科のサポートはもちろん、病院からのキャリア支援が重要な時代ですね。

小西：そうですね。私は現在、岐阜大学の医学教育プログラムに参加しています。小児科研修における評価制度を変えたり、評価法を変更するなど、毎年少しずつ研修プログラムを改良しています。

結城：松江赤十字病院では「メンター制度」も。小西先生はメンターとしても活躍されていますね。

小西：何が足りなくて、どう努力していくべきかを定期的に観察し、長い目で自分のキャリアを見つめる機会を作れます。



小児科 副部長
小西 恵理 先生
こにし えり

1年目で結婚、その後5年目に第一子を出産。三人の子どもがいます。子育て中でも、夫婦ともに医師を辞めようと思ったことはありません。



初期研修医(2年目)
阿武 茉莉 先生
あんの まり

島根大学を卒業し、現在、初期研修2年目です。松江赤十字病院の働きやすさを実感しています。



消化器内科
結城 崇史 先生
ゆうき たかふみ

松江生協病院、松江市立病院、聖路加国際病院などを経て、昨年より松江赤十字病院に勤めています。

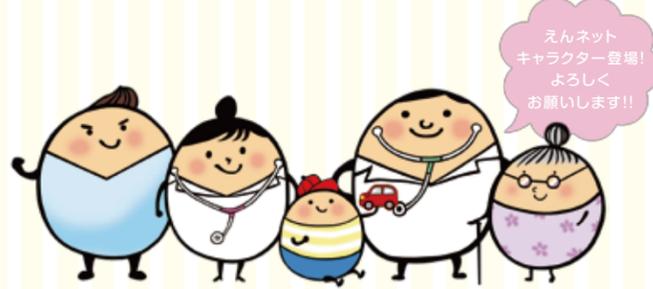


消化器内科(後期研修医)
尾上 歩美 先生
おの え あゆみ

鳥取大学を卒業し、結婚。松江赤十字病院での初期研修2年目に出産。半年ほどで復帰し、今は消化器内科でサポートを受けながら働いています。

えんネット

えんネットではキャリア支援から託児付きセミナー開催、学生教育まで様々な支援を積極的に行っています



えんネット
キャラクター登場!
よろしく
お願いします!!

キャリア支援 両立支援



- 相談窓口
- 就労環境改善の取り組み
- 託児付セミナー など

育児・介護支援 情報提供



- 県内病院就労支援
- 県内自治体保育支援
- 支援情報へのリンク

学生教育



- キャリアモデル実習
- キャリア教育
- ランチョンセミナー

今年度えんネットの取り組み(一部)紹介

キャリアモデル実習 (ワーク&ライフ)

医学生が、病院内実習だけでなく、医師の生活面(例:保育園送迎等)も垣間見る事ができる様、医師密着型の実習を行っています。先生方の受け入れのご協力により女子学生が実習を行いました。

ランチョンセミナー

基本的に毎月1回、医師に自分のキャリアから学生に伝えたいことをお話していただいています。自分、配偶者、子ども、家族皆それぞれの人生がある中で、自分らしい選択をされている先生方のお話に毎回引き込まれます。



託児付きセミナー開催

今年度、総合診療ワークショップ、ブラッシュアップ講習会、精神科医キャリアアップ支援ネットワーク研修会等のセミナーを託児付きで開催し、子育て中の医師が参加しました。



復職支援

育児や療養などで勤務を中断された医師の復職を支援しています。



— 来年度も上記の取り組みを引き続き行っていきます —

募集しています! 1

上記、キャリアモデル実習
受け入れ先

既に受け入れられた先生からは「自分も子ども学生から学び、エネルギーをもらった」「女子会を開ききっかけになった」とのお話をいただいています。

募集しています! 2

上記、ランチョンセミナー
講師

学生に話すことでご自分のキャリアの振り返り・見直しのきっかけになるかもしれません! 平日昼40分程、島根大学医学部で行います。

募集しています! 3

就労環境づくりに積極的に
取り組んでいる病院

当マガジンで就労環境づくりに積極的に取り組んでいる病院を取り上げさせていただきます。



公式にメンター制度を設けているのは、この病院の魅力の一つですね。

阿武：小西先生が開催された研修医対象の「電話コミュニケーション」に対する改善プログラムも役立ちました。

佐野：非常に実践的。私たち医師は想像以上に電話の回数は多いですからね。

結城：小西先生のように研修プログラムの研究など、アクティビティ高く活動している先生が多いことも松江赤十字病院の自慢です。

尾上：教育熱心な先生が多いので、研



修医もなじみやすいですし、病院に活気を感じます。

結城：これから一緒に働く研修医の皆さんとともに、地域のため、患者さんのためにみんなでキャリアアップし、地域の安心を支えたいですね。

佐野：キャリアサポートを行う私たち「えんネット」にとって、松江赤十字病院の取り組みは非常に参考になりました。これからも、ぜひ一緒に島根で働く医師のキャリアアップを応援していきましょう。今日はありがとうございました!

えんネット × Report

POINT

★地域から、病院から必要とされている!

松江圏域唯一の3次救急病院だから、研修医や若手医師、また、ライフイベント中の医師も多くの人に必要とされている環境で働けます。

★保育所が病院のすぐそば!

病院から徒歩1分の「松江赤十字病院保育所」では、1か月前に申請しておけば24時間体制での預かりも可能です。

★子育て中の勤務システムが充実!

病院側が3~4種類の時短勤務プランを用意し、子育て中は当直など働き方に配慮があるため安心して働けます。

★子育て中の医師が多く活躍しています!

入院患者さんを担当する場合、緊急時は「セカンド」と呼ばれる医師がバックアップも。病院全体がキャリアの継続を応援している環境です。

★メンター制度でキャリアを考えられる

上級医の「メンター」とともに、数年先の自分のキャリアを考える時間を設けています。忙しい研修中でも、長い目でキャリアを考える時間は、後々役立つでしょう。

★実践的な講習が受けられる

「電話コミュニケーション」の改善プログラムなど研修医対象の講習が、その日からすぐに役立つと好評です。

これから研修や勤務病院を選ぶ医師にとって、3次救急まで診ている市中病院では良い経験を積めるものの「忙しいとキャリアプランどころではないかもしれない…」と不安になる方もいらっしゃることでしょ。しかし今回、私たちえんネットが開催させていただいた座談会では、働きやすい環境作りへの様々な取り組みを伺うことができました。松江赤十字病院では医師がキャリアアップを楽しみ、そのキャリアアップが地域医療への貢献になっている様子。皆さんのお話から感じられた、松江赤十字病院の働きやすさのポイントをまとめてみました!



Information

松江赤十字病院

〒690-8506
島根県松江市母衣町200番地
TEL 0852-24-2111(代)
FAX 0852-21-6469
E-mail: jinji@matsue.jrc.or.jp
http://www.matsue.jrc.or.jp/